

令和4年度 学校教育目標設定報告書

学校番号 定5 学校名 千葉県立市川工業高等学校 課程名 定時制

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)
学校経営	<p>1 定時制及び学科の特色を生かした学校経営を推進する。</p> <p>2 学校からの発信強化を図り、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを進める。</p> <p>3 「学校における働き方改革」の実現へ向けての意識の定着を図る。</p>	<p>① 「0時限授業」の充実や「外国生徒教育相談員」の積極的な導入・展開を図る。</p> <p>② ホームページやマチコミメールを利用した情報発信を強化する。また、「定通教育振興会」での情報交換や授業公開、ミニ集会、実習体験会、学校説明会等を開催する。</p> <p>③ 「学校における働き方改革推進プラン」の県の目標に沿い、業務量の適切な管理等に係る取組を遂行する。</p>	<p>① レインボールームで学ぶ生徒の学習効果は向上したか。相談員と生徒のコミュニケーションがとれているか。</p> <p>② ホームページの掲載内容と更新状況及びマチコミメールの発信回数を確認。広報活動への取組状況。</p> <p>③ 教職員の在校時間等の状況の確認。教職員の働き方改革に関する意識調査。</p>
学習指導	<p>1 生徒の個に応じた学習指導により、基礎学力と学ぶ意欲の向上を図る。</p> <p>2 ICTを活用した学校教育の推進とともに、新学習指導要領による観点別評価の共通理解を図る。</p> <p>3 各種の資格取得や実務代替により学習意欲を向上させる。</p>	<p>① 少人数授業の展開で、基礎的・基本的な知識や技能の修得を図る。</p> <p>② 生徒による授業評価アンケートを行う。</p> <p>③ 授業公開を積極的に行う。また、保護者による授業評価アンケートを行う。</p> <p>④ ICTプロジェクトチームによる研修及び1学年授業における観点別評価について、授業研究や教科または校内での研修を行い、検証と改善を図りながらPDCAサイクルを確立させる。</p> <p>⑤ 資格取得情報を提供し、資格取得の奨励と合格に向けた具体的かつ計画的な指導を展開するとともに、実務代替の活用を図る。</p>	<p>① 効果的な少人数授業が展開できたか。適切な助言ができたか。</p> <p>② 生徒によるアンケートの結果、授業満足度が85%以上か。</p> <p>③ 保護者によるアンケートの結果、授業満足度が80%以上か。</p> <p>④ 授業研究や研修を実施したか。観点別評価について、職員の情報共有が図れたか。また、それらをとおり授業改善に役立てることができたか。</p> <p>⑤ 各種資格の受験要項や試験内容実務代替の内容が的確に伝わったか。また、資格取得のための指導を行ったか。</p>
生徒指導	<p>1 基本的な生活習慣の定着に努めるとともに生徒理解を深め、生徒指導及び教育相談体制を充実させる。</p> <p>2 効果的な安全教育を展開する。</p>	<p>① 定期的な面談週間を設定し、生徒の悩みを把握し継続的な支援をする。また、いじめをはじめとした問題行動に対しても日頃の防止活動及び早期発見に努めホームルームや全校集会等の機会を生かし、きめ細かな生徒指導を展開する。</p> <p>② 自転車等の交通安全指導、薬物乱用防止教室、情報モラル教育、避難訓練等を生徒の実態に即し、計画的に実施する。</p>	<p>① 生徒や保護者の面談週間を週4回以上設けることができたか。ホームルーム等において、道徳に関する指導、いじめ発見のための取組を行ったか。中途退学者や遅刻欠席者が前年度より減少したか。</p> <p>② 生徒の実態に即した効果的な実施ができたか(実施回数や指導内容)。</p>
キャリア教育	<p>1 キャリア教育の充実を図り、生涯設計を主体的に考える力を育成する。</p> <p>2 進学指導の充実及び生徒の進路実現に向けた指導の充実を図る。</p> <p>3 外国ルーツの生徒への進路指導體制を構築する。</p>	<p>① 一人一人のキャリア発達を支援するために、計画的・組織的な指導・援助を行う。</p> <p>② 進学及び就職先を生徒自らが研究できるよう教員が積極的に情報を集め、一人一人の生徒にあった支援ができるようにする。</p> <p>③ 各関係機関等と連携を図り、外国ルーツの進路支援について協働的な体制を整える。</p>	<p>① 進路ガイダンスや個人面談により、計画的かつ効果的な支援をしたか。</p> <p>② 教員が大学、専門学校等の担当者及び企業担当者何人と面談したか。進学及び就職希望者の進路決定率は100%か。</p> <p>③ 各関係機関や外国人相談員などの有効人材を活用し、情報共有を図りながら効果的な支援ができたか。</p>

<p>特色ある活動</p>	<p>1 聴講生や大学・高校卒業生徒、外国籍の生徒のための学習計画を点検する。</p> <p>2 「総合体育大会」や「総合技術コンクール」への参加を促進する。</p>	<p>①授業時間割への配慮等を行い修得のための支援を強化する。</p> <p>②松戸南高校・千葉大宮高校との学校間連携を、生徒の聴講状況など情報を緊密に取りながら進める。</p> <p>③大会や技術競技会への参加を促し、当該生徒の活躍を評価する。</p>	<p>①成人入学生や外国籍の生徒は修了できたか。</p> <p>②学校間連携事業に参加した生徒は、単位を修得できたか。</p> <p>③部活動の参加率やコンクール等の入賞実績は向上したか。</p>
---------------	---	---	--